日文 教授用資料

楽しい学び de クラスをつくる

Vol.01

学びが充実すると子どもが生き生き！

子どものかかわり合いが増えて安心・安全なクラス経営！

家庭でも学習の話題で、保護者の信頼度もアップ！

そんな私（教師）の心身も健康！

大滝 文平

○子どもの主体性をはぐくむのは教師の役割

「子どもの主体性を高めるために、今週は教師がしゃべらないように頑張ります」週予定表のコメント欄に書かれていた、ある経験の浅い先生の言葉です。主体的な学びを構築するために、まずは教師が指示を出さないようにする。トライしたことある先生は多いのではないでしょうか。すてきな心がけですね。

うまくいきましたか？成果もあったことでしょう。手立ての一つとして有効かもしれません。しかし、教師が静かになれば、子どもが自分から話し出す…、そんな簡単なことではないと思います。子どもが主体的に学ぶ姿が表出するためには、教師（授業者）による手立ての積み重ねがあってこそなのです。

この冊子では、子どもの主体性をはぐくむための教師の手立て（授業のエッセンス）を紹介していきます。

◆ この冊子って何？

「主体的に学ぶ子ども」をはぐくむ授業のエッセンスがいっぱい！

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ！
日文 検索

※本冊子掲載QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
※QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

よくある日常を見つめ直してみよう！

Case①

「さあ、計算スキル30ページまで終わっていない人はやっちゃいましょう。終わった人から先生のところに（スキルを）持ってきましょうね。一人ずつ丸付けしますからね。それも終わったら読書をしていましょう」

その後、できた子から教卓の前に来て順に並んで待っている子、取り組んでいる子、終わって読書をしている子。

Case②

「今日から〇〇の学習に入ります。教科書 75 ページを開きます。10分時間を取りますので、まずは読みましょう。（先生、タイマーをセット）それでは、どうぞ『ピッ（タイマースタート！）』」

Case③

「では（授業終了の）時間になったので、今日の学習のまとめを（黒板に）書きます。みなさんノートは開きましたか。それでは書きますよ（先生が書いたまとめを子どもが書き写す）」

「うちのクラスの子、あまり発言しなくて…」
「子どもたちの反応が弱くて困っている」
「最近の子は大人しいな」

もし先生がこのように感じているとしたら、その要因は先生自身によるものもあるかも知れません。どういうことでしょうか？

上記〔case①～③を学習場面で見かけることがあると思います。自身でもされているかもしれません。さて、どのように感じますか。先生の言葉遣いはとても丁寧です。授業の準備等もしっかりされている様子がうかがえます。何か問題があるのでしょうか？

視点を子どもに変えてみましょう。「学びの主役」である子どもが、このような日々を積み重ねたら…主体性ははぐくまれますか。

Case① フリーダムが学びを止める！

この場面、果たして学んでいる子は何人くらいでしょうか。先生に丸付けをしてもらっている子、課題の問題に取り組んでいる子。それでは待っている子は？全部終わった子やわからない子など、学んでいない子がいる状況が生まれています。先生は丸付けをしているのであまり周囲が見えていません。そもそも、子どもはこの学習で、楽しく主体的に学べたのでしょうか。

Change①

この時間のように、やらなければいけない課題が残ってしまう時はあります。こんな問いかけはいかがでしょうか。

T：「終わったら、何が出来る？」
〔1：「先生、国語の作文がまだの人はやっていいですか」
〔2：「わたしは宿題プリントの直しをやりたいです」
T：「他にやることがない人はいますか？（しっかり確認）では、30 ページまで終わった人は提出して、次の課題に進んでね。わからないところがある人は、手を挙げてください」

大切なことは、子どもの学ぶ姿を先生が見守ること。自分でやることを見つけた〔1、〔2の子を称賛し、その学びを認めることでやり遂げる責任が子ども自身に生まれます。

これは、自習の場面でも有効です。でも、このような学習をしなければならない時の対応です。また、「課題が終わったら読書」をよく見ますが、読書の環境を大事にすることで、本の世界を広げることにつながると思います。取り入れるなら、最後の10分、先生もみんなも一斉に読書タイム♪

Case② タイマーが全てを支配する！

どのクラスにもタイマーがあるのが当たり前になっていますが、そもそもタイマーは何のためにあるのでしょうか？

T：「近くの子と話し合いましょう。時間を３分取りますね。どうぞ『ピッ！』」

このような使い方も多いのではないでしょうか。子どもが時間を意識して自ら動くことを大切にするために、最近はチャイムの回数も限られている学校が多いと思います。それはタイマーだって同じことなのでは？そして、「10 分」に根拠はありますか？もし、「あっ、読み終わらないや。残りは適当に読んじゃえ」と言う子がいたとしたら、精読のねらいは達成されたといえますか。その10 分が、授業を構成するための教師側の都合だとしたら･･･。

Change②

子どもが関心をもって学びを進めるためにも、あまり時間のプレッシャーはかけたくありません。子どもが読み進め、読み終わる様子をあたたかく見守ってほしいものです。

「だいぶ、読み終わった人が多いようですが、どうですか」あるいは、読む前に、実態に応じて、「読み終わったら、どうしますか？」「読み終わったら、最初の感想を書くのもいいね」など、自らの学習に見通しをもてる声かけもよいでしょう。また、タイマーを使うことを否定しませんが、タイマーを使う主語を子どもにしませんか。例えば、

〔：「先生、近くの子と少し相談したいです」
T：「なるほど、みなさんは？」
〔：「同じです」
T：「では、どれくらい（の時間）？」
〔：「３分くらいで」
〔またはT：「ピッ！」

これだと、子どもが決めたタイマーの使用になります。そして、自分たちで決めた時間だからこそ、有効に使うことでしょう。

Case③ 誰の『まとめ』？

これは学習の振り返りの場面で見られます。さて、学ぶ主体は誰？「まとめ」は誰のための「まとめ」でしょうか。

Change③

子どもが自分の言葉でまとめを書けるようになったら、それは本当に学んだことにつながりますよね。「さあ、今日学んだこと、どんな言葉を使えばいいかな？」「はい、まとめの時間ですね」など、発達段階に応じて、自分の言葉で書くことを促していきたいですね。その積み重ねが、授業終わりになると「勝手に」書き始めるようになることでしょう。また、個々の「まとめ」を伝え合うことで学びが高まります。もちろん、そのような姿を称賛することを忘れずに！

どんな時でも思考を促し、主体性アップ！

それぞれの Case で共通しているのは、言葉は丁寧でも「子どもに指示を出している」ことです。それらの「指示」を「子どもの思考を促す問いかけ」に Change するのが、主体性をはぐくむ教師の役割です。これは全ての学習活動（学校生活での活動）に言えることです。多くの場面で Change できる CHANCE があるはずです。

見つめ直しポイント！
「指示」から「思考」への言葉かけ

子どもが自分で思考を働かせて問題を追究し、その学ぶ姿を仲間や教師から認められたら、大きな喜びになることでしょう。そして、もっと学びたい、と次への意欲につながります。そして、何よりこのような学びは子どもへの確かな知識として身につくことでしょう。次ページからの実践では、「社会科が楽しい！」と子どもが実感できるための、「思考」を促す教師の言葉かけが手立てとして有効に働いています。３年生の社会科入門期の大切な学びの様子をご覧ください。

（横浜市立箕輪小学校　大滝 文平）

子どもと一緒に学習をつくろう！

３年生　６月中旬～７月実施

単元名　お客様が一番！
Ｍスーパーマーケットの
ひみつを見つけよう（全８時間）

〈実践者〉横浜市立中山小学校　引田 雄士

Scene 1　コロナ禍で見学ができない！

「ごめんなさい。お子さんたちに見に来ていただきたいのですが、社会情勢により、見学はお断りしていまして･･･」

学区内のスーパーマーケットに見学をお願いしたところ、このように断られてしまいました。今のご時世では仕方のないことです。

３年生から社会科が始まります。子どもたちが「社会科って楽しい！」と実感できるためには、実物を見るのが一番です。とりあえず、店の様子やバックヤードなどの写真を撮らせてもらいました。また、店長さんにインタビューもしました。それでも、実際に見ることができない子どもたちにとってイメージがわかないのではないかとの心配はありました。

Scene 2　生活経験を学習の根拠に！

単元のスタートです。まず、みんなで「買い物調査」をしました。「買い物調査」をするねらいは、家の人とスーパーマーケットについて話し合う機会をもつためです。３年生では、生活経験が子どもたちの発表の根拠になることが多く、家の人と「買い物調査」というツールを使って話し合うことで、生活経験がより具体的になり、発表の根拠になると考えました。

子どもが自分から動くためのポイント①

生活経験を根拠に発表するために、家の人と買い物について話し合う場を設定する！

実際の「買い物調査」の発表では、地域の様々な店が挙がりました。それらを、前単元の「まちの様子」で作成した絵地図で場所を確認しながら学習を進めました。そして、みんなが一番利用しているのが Ｍ スーパーマーケットであることがわかり、「Ｍ スーパーマーケットに多くのお客さんが集まるひみつを見つけよう」という問い（学習問題）が生まれました。

知っている店をしょうかいし合う　組　名前

めあて　わたしたちの住む地いきには，どのような店があるのだろう。

●買い物カードをかんせいさせましょう。

買い物をした日	買い物をした店	買った品物	話を聞いたこと
月　日（　）			
月　日（　）			
月　日（　）			
月　日（　）			

Scene 3　主体性の芽あらわる！

「買い物調査」の発表が終了して、Ａさんが「よく Ｍ スーパーマーケットに行くんだけど、放課後に調べてきてもいい？」と言ってきました。わたしは、商品の置き方に着目した調べ学習をしてほしいとの意図から、「どんな商品があるか、その商品がどのように置かれているか見てくるといいよ」と伝えました。「わかった！楽しみにしていてね！」 見る視点を子どもに伝えることで、焦点を絞って調べることができます。また、今後の学習のねらいにもつながります。

子どもが自分から動くためのポイント②

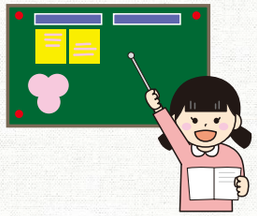
子どもの「やりたい！」をどのように学習に生かしていくか考え、その子にあった助言をする！

今回、Ａさんが調べてこようと思ったのは、前単元でのＢさんの姿につながっていると考えます。前単元「まちの様子」の中で、「地元の商店街にはどんな店があるだろう」という話題が出ました。次の日にＢさんは、実際に商店街に行って調べてきたことを、みんなに伝えました。みんなは調べてきた内容を聞いて「Ｂさんくわしく調べてきてすごい！」「学習に生かせる」と喜んでいました。きっとＡさんも、「自分も実際に行ってみよう」という気持ちが芽生えたのでしょう。自分から調べる子どもの姿をみんなで認めることで、このような主体性の芽があらわれるのだと感じました。

Scene 4　自分で調べ、作成＆発表！
～クラスに広がる主体性の輪！～

さっそく、Ａさんが Ｍ スーパーマーケットに行って調べ学習をしてきました。その時に一緒に行ったＣさんも人気のある商品を調べて、家で調べたことをまとめてきました。調べたことを、自分でまとめて「自分なりの資料」を作成することで、より確かな理解につながります。

Ｃさんは、作成した「資料」をもとにみんなに伝えます。自分で作っただけに伝え方もバッチリです！みんなも人気のある商品を理解できました。こうして、自分で調べて「自分なりの資料」をつくる子どもが増え、伝え合う場面がより豊かになっていきました。さらに、店のチラシやレシート、賞味期限が載っている商品の袋など、いろいろなものが集まってきます。クラス全体に学びの輪が広がっていくのがわかりました。資料を持ってきた時の一人ひとりの表情がとても嬉しそうで、自分も嬉しくなります。



子どもが自分から動くためのポイント③

調べたことを、「自分なりに作成した資料」にすれば、自分もみんなも確かな理解へ！

Scene 5　さらに広がる主体性の輪！

学習を進める中で、「店内はどうなっているのだろう」という疑問が生まれてきました。みんなで見学ができないことで、その共有に難しさがあります。教科書には一般的なスーパーマーケットの店内の様子が載っています。「こんな感じなのかな？」とか「違うところもありそう」など子どもはつぶやいていました。わたしが「次時に店内の様子の資料を準備したほうがいいな」と感じていると、Ｄさんが、「よくＭスーパーマーケットに行くから、中の様子がわかるよ」と言い、進んで書き始めました。次の時間はＤさんが書いた店内の様子をもとに、みんなで話し合いました。「もう少し書き足したいから、もう一回、Ｍスーパーマーケットに行ってくるよ」と言って、何回もＭスーパーマーケットに行く子どもが出てきました。

「自分なりに作成した資料」は情報が足りないものも多くあります。しかし、子どもが自らつくり、その頑張りを認め合うことで、みんながもっと調べたい気持ちが生まれてくることに気付きました。今回の Ｍ スーパーマーケットの店内の様子をさらに調べるために、何回も取

材に行く子どもも出てきました。教師側は資料の準備は必要ですが、みんなでつくっていくことを保証することで、自分から動く力が付いていくと感じました。このような学ぶ姿勢を大切にしたいです。

Scene 6 スーパーマーケットをつくっちゃえ！？

～見学に行けなくても･･･ピンチはチャンス！～

学習を通して、少しずつＭスーパーマーケットの様子が見えてきました。そんな学習中にＥさんが、「みんなで見に行けないから、教室をＭ スーパーマーケットにしちゃえば？」とクラスに呼びかけました。

みんな「いいね！」と盛り上がり、学習のまとめとして、Ｍ スーパーマーケットづくりが始まりました。看板や商品などは、折り紙や画用紙を使ってつくりました。今まで自分たちで調べたことや学び合いを通して、学習してきたことを基にしての店づくりでした。

今回の単元では、実際に見学には行けませんでした。もちろん、本物を見ることが一番の学びになりますが、この社会情勢では難しいこともあります。しかし、Ｍ スーパーマーケットの学習を通して、「商品がこんな並び方をしているんだ」「いろいろな野菜が置いてある」など、店の工夫について気付きました。子どもの「放課後に行きたい！」などの自主性を保障し、一人ひとりの成果を価値付けしたり、ねらいに沿った具体的な言葉で問い返したりすることで、主体性の芽があらわれ、クラスに主体性の輪が広がっていったのだと感じます。３年生の学習内容（まちの店）だからこそ実現できたことですが、他の学年でも、きっと違った方法が必ずあると思います。

今回の単元で、見学に行けなくても、ピンチをチャンスにできることが、子どもの姿を通して実感できました。これからも子どもとともに、まだまだ学び続けたいです。

子どもが自分から動くためのポイント④
ピンチをチャンスに変えるヒントは子どもの学ぶ姿！

番外編 調べる宿題は出さない！

本単元で「買い物調査」は行いましたが、普段は調べ学習としての宿題を出していません。宿題にすると当たり前のことですが、調べてくる子どもは増えます。しかし、「調べたい！」ではなく「調べましょう」なので、継続した調べ学習になりにくいものです。実際に多くの子どもは２回目を調べてきません。

自分から調べてきた子どもを「スーパーマーケットの商品について調べてきたんだね」とか「商品の並べ方について調べてきたんだね」など、内容を具体的に伝えながら学習中にほめるようにしています。そうすると、次の学習から、自分から調べてくる子どもが増えていきます。そして、調べてくる内容や質も向上していきます。Scene４のＣさんの姿がそれを表しています。「調べたことを自分でまとめてきたんだね」こんな声かけが、「よし！自分もやるぞ！」と子どもの心に火をつけることでしょう。ただし最初は（特に３年生）調べ方がわからない子も多いので、全体に調べ方を指導することも大切です。

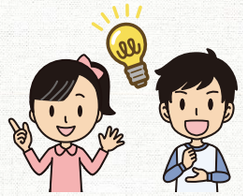
子どもが自分から動くためのポイント⑤
あえて宿題にしないで、自主性を価値付ける！

◆ 今回のエッセンスポイント

●見方を変えることで「ピンチをチャンス」に変える！
●子どもの「やる気」に具体的な視点を伝えて、「主体性」の輪を広げる！

今回の実践では、全体での見学ができない状況でしたが、子どもの「調べたい！」を保障することで、最後には自分たちで「お店をつくる」という学習へ展開しました。3年生の社会科は、身近な地域を繰り返し取材したり、検証したりできる楽しさがあります。個々が調べ学習をして調べたことを伝え合うことで、「お店をつくる」ことに広がりました。授業者の記述にあるように、「自主性を保障し、一人ひとりの成果を、ねらいに沿った具体的な言葉で価値付けすること」で、子どもが「自分から動く力が付く」ことにつながるのでしょう。また、子どもの「資料」の足りない情報を補完し合うことが、集団での「学び合い」に発展しています。

さらに、個々の調べ学習で見る視点（調べる視点）を授業者が助言することで、学び合いのポイントが明確になっていました。この学習では「店内はどうなっているのだろう」というScene５の学習に活用できる、調べ学習の視点を伝えていました。「調べておいで！」の声かけだけでは、学習問題（子どもが学び合いを通して解決しようとする問題）がつくりあげられることは難しいでしょう。授業者がどのような学び合いをつくりたいかイメージし、その学びにつながる具体的な助言（手立て）がポイントになります。そのような個々への声かけが、「自分も調べたい！」という「主体性」の輪に広がっていくのですね。



みんなで楽しく学ぼう！ 先生たちの勉強の場（今年で6年目）紹介！

社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場（きたまなば）」

今までこんな「お題」で語り合いました！（一部）
- ●どうやる「学級開き」？
- ●すてきな板書de子どもが万笑！
- ●指導案検討なんて怖くない!?
- ●まな板の上の鯉（実践提案）
- ●子ども自慢選手権
  ～「この子」に惑い「この子」に惚れた～
- ●第１回　導入選手権！（単元の入り方）
- ●特集 The指名！（学習中の指名について）

「お題」は参加者の声で決めています！

横浜市北部（青葉区、都筑区、緑区、港北区）の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。発足して6年目になりますが、今では横浜市内・市外の初任者を初め、経験の浅い先生や中堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味がございましたら、連絡（メール）をいただけると案内チラシを送らせていただきます。

遅刻・早退OK！事前申し込みも不要！

北学場
〈連絡先〉大滝 文平
bunpei_o@yahoo.co.jp

VOL.02 からは Q&A で、みなさんのお悩みにお答えします。

YUKIKOの部屋

Check point!

楽しい社会科とは？

みなさんは、社会科が好きですか？わたしは子どもの頃、社会科は暗記科目という印象があり、あまり好きではありませんでした。そんなわたしがまず社会科を好きになったのは、学生時代でした。歴史の面白さを知り、自分で「主体的に」図書館に行き、自分で教科書には載っていないことも調べました。さらに社会科を好きになったのは、教師になってからです。先輩の先生方が温かく見守ってくださり、「子どもたちが楽しいと思える授業をしたい！」と、自分で「主体的に」単元づくり・授業づくりをしてきました。子どもたちが変容していく姿を見て、社会科の面白さや奥深さをたくさん感じ、今では大好きな学習になりました。

子どもたちも、「知りたい！」「調べたい！」「やってみたい！」と、自分から「主体的に」学んでいる時が、楽しさを感じる瞬間の一つなのではないでしょうか。

主体的に学んでいく中で、「そうだったのか！」「こう考えが変わったよ！」と、自己の変容や成長を感じることで、さらに学びの楽しさを実感できると思います。主体的に学び、子どもたちも教師も楽しい社会科を、これからみんなで一緒に考えていきませんか。

（横浜市立本牧小学校　武藤 由希子）

VOL.02 は、「子どもの見取り」を取り上げます。

※本冊子に掲載されているイラストは全てイメージです。

楽しい学び de クラスをつくる

日文 教授用資料

令和5年（2023年）1月25日発行

編集・発行人　佐々木秀樹

発行所　日本文教出版株式会社
〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL：06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33643

日本文教出版 株式会社
https://www.nichibun-g.co.jp/

東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618

大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

九州支社　〒810-0022　福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696　FAX:092-521-3938

東海支社　〒461-0004　名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260　FAX:052-979-7261

北海道出張所　〒001-0909　札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201　FAX:011-764-0690